

■ 授業準備をしたり、試験問題を作ったりしている段階で、「あれ？これはどういうことかな？」とか「あ、これは一般化できそうだな」などと思い、鉛筆を動かしてあれこれ計算したり、図を描いたりすることは楽しい。そして、何らかの成果が得られたらうれしい。

そういった成果はそのまま放置せずに、どこかに発表するのがよい。そうすると、不十分な個所を指摘されたり、思いもかけぬアドバイスがもらえて内容が深まったりすることがあるからである。

■ 発表の場としては、昔は研究会くらいしかなかったが、最近では自分で HP を開設すればそこからまさに World Wide に発表できる。そこまでしなくても、高校の数学という内容に限定すれば、様々な教科書会社が「研究発表の場」を設けているので、そこに投稿すれば、内容をチェックした上で(?)印刷物や HP 上に載せてくれる。

■ 最近、東京書籍の「新着資料」を見ていてびっくりした。その中に「ベン図と漸化式」(山口県立岩国高等学校教諭 西元教善氏)というレポート(2011年10月14日公開)があり

(<http://ten.tokyo-shoseki.co.jp/material/59989.htm>),それがこの「雑感」の「50 アメーバベン図」(2011年8月)の内容とほとんど同意のものであったのである。そのレポートのアブストラクトは、次の通りである。

「集合の要素や要素の個数について3つまでの集合を扱い、とくに後者においてはベン図的な説明が行われることが多い。確かに、離散的な要素からなる有限集合が3つまでであれば、ベン図でうまくいく。では、4つ以上になるとどうであろうか。本稿では、4つ以上の集合のベン図について、漸化式、数学的帰納法を絡めて考察する。」

■ 私のこの HP は閲覧者も限られていて(?)、閲覧数も少ないので西元氏が私の「アメーバベン図」を参考にしたものではないと思う(レポートに参考文献的な記載もないのでそう思うだけだが...)。しかし、同意のレポート発表がこんなに時期的に近いというのは、驚きである。

■ さて、ここで問題にしたいのはレポートのプライオリティ(優先権)である。

きちんとした論文であれば、先行研究などを調べられるだけ調べて、オリジナリティがあると判断できる場合に発表ができる。すでに誰かが研究したこととほとんど同意の内容であれば、発表の価値がないからである。

しかし、ちょっとしたレポートレベルでは、先行研究などを調べきれない。それは、発表の場が数多くありすぎるし、その多くは一部の者しか目にできないのが一般的だからである。だからといって、レポートにプライオリティがないわけではない。先に発表した者に優先権があるのは当然のことである。

それだけに、レポートそのものに発表日の記載が必要だ。

■ 私の「雑感」も一種のレポートだと思っているが、レポートにこれまできちんと発表年月日を記載してこなかったことを反省し、遅ればせながら、記載をしようかと思っている。

例えば、今回のベン図と漸化式などに関するレポートで、後年、私が西元氏のを勝手に参照したなどと、勘ぐられないためにも…。